2009/12/8 付　建設産業新聞

【JCCA 東北支部】講演会の記事が掲載されました

「真に必要な社会資本整備」をめざして

適正な評価で計画的に

建コン協東北　09年度講演会

森杉教授

建設コンサルタンツ協会東北支部（遠藤敏雄支部長）は4日、仙台市のホテル法華クラブ仙台で「真に必要な社会資本整備をめざして」をテーマに09年度講演会を開いた。

公共事業に対する様々な見解が出されているなか、地域の安全・安心と地域経済の活性化を担う東北における社会資本整備の重要性を再認識し、真に必要とされる社会資本整備のあり方を探ろうと、東北大学大学院の森杉壽芳特任教授と八戸短期大学の三村三千代客員教授が講演。会員、建設関係者ら200人を超える参加があった。

冒頭、遠藤支部長は「長期にわたる景気の低迷で、立ち直るひまもなく、経済の先行き不安を強めている。来年の建設投資予算は30年前に匹敵する規模で、ピーク時の45%まで減少するといわれており、たった10年で半分になり、急激な落ち込みが予測されている。一方で、地方の社会資本整備はまだまだ十分とはいえない状況にあり、選択と集中を強化し、必要な社会資本を適正に評価し、計画的に整備しなければならない。東北の厳しい自然環境を克服し、安心と生活の基盤をつくることが重要であり、雇用創出も大きな課題」と問題提起したうえで、「真に必要な社会資本整備は、適切な評価に加え、複合する環境、風土、伝統文化の継承などがしっかり認識され、理解を得られるきっかけにしたい」とあいさつした。

このあと、森杉教授が「真に必要な社会資本整備とは」と題し、高速道路料金の望ましい水準について緊急提言。税収を増税によって得るために、納税者のコスト負担の追加を限界費用として計算式で表したうえで、「料金水準ゼロは、望ましい水準とはいえない。燃料税がある場合や平行する道路の有無など条件を当てはめ、計算によって最適な料金を設定することは可能。既存の正規料金では高すぎ、その半分ぐらいが適正である」と私見を示した。

さらに、東北圏広域地方計画についても概要を説明。「13の重点目標に向け、方向性はみえている。コンソーシアムによって体制を整え、プロジェクトチームが順次、始動している。東北地方の未来は暗くないと思っている」と話した。

このほか、三村教授が「古代の技術、古代の知恵」と題し、現代人が学ぶべき根源となる技術の原点について、話題提供した。